

日本に集中する 長寿企業の秘訣

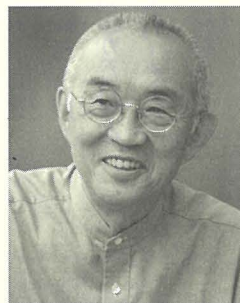
東京大学名誉教授
つきお よしお
月尾嘉男

長寿企業限定のエノキアン協会

パリにエノキアン協会という組織が存在する。アダムとイブがエデンの楽園を追放されたから最初に誕生した子供カインは、兄弟であるアベルを殺害して荒野に追放され、そこで誕生した子供でエノクという人物が『旧約聖書』に登場する。寿命が三六五年であったところから、歴史・

伝統・繁栄の象徴とされ、その名前に由来するのがエノキアン協会である。一言で表現すれば創業二〇〇年以上の企業の親睦団体である。

長年の歴史をもつヨーロッパ企業が相互に交流しようという目的で一九八〇年代初頭に設立されたが、単純に二〇〇年以上の歴史があるだけでは会員になれず、現在も創業一族が経営をし、筆頭株主も創業一族で



数社が会員であり、日本からも「虎屋」「赤福」「岡谷鋼機」など五社が参加している。

会員のうちヨーロッパで最古の企業はイタリアの古都ベネチアでガラス細工を製造している「パロヴェイエル・トソ」という、一三世紀末期に創業した七〇〇年以上の歴史のある会社である。しかし、会員全体のうち最古の企業は現在も石川県小松市の粟津温泉で営業している旅館「法師」である。ギネスブックにも世界最古の旅館として認定されており、創業七一八年であるから、現在で一三〇〇年近い歴史になる。

なぜ日本に長寿企業が多いのか

現在まで継続している世界最古の企業も日本に存在する。聖徳太子が七大寺院を建設するため、百濟から三人の大工を招致したが、その一人で四天王寺を建立した金剛重光が日本に残留して五七八年に創業した「金剛組」である。残念ながら、明治初期の廃仏毀釈運動、戦後の木造寺院建築の減少などの影響により、最近になって経営が破綻し、現

在では高松建設の傘下にあるが、一四〇〇年余も継続した企業が日本に存在しているのである。

さらに興味あることは、ある学者の調査によると、日本には創業二〇〇年以上の企業が約三〇〇〇社あるが、ドイツには八〇〇社程度、オランダには二〇〇社程度との結果である。日本が一度も侵略されず、戦国時代の一時を例外として、安定した社会を維持してきた成果であるが、それだけが理由ではない。日本の歴史のある企業には家訓や遺訓などが伝承されているが、それらに集約される経営理念の成果なのである。

歴史ある企業に共通する理念

それらを大別すると三種になる。第一は「顧客本位」。泰澄大師の指示で開業した「法師」は金銭を蓄積するのではなく徳行を蓄積することを社是とし、石川県金沢市で釣針を製造販売して四三〇年以上の「目細八郎兵衛」は利欲よりも義理を重視することを家訓としている。江戸時代に策定された「金剛組」の『職家心得之事』には、見積りなどを無私正

直で作成することを遺戒として記述している。いずれも主客一体である。

第二は「切磋琢磨」。東海地方特産の大豆を原料とする味噌は岡崎市内で隣接している「まるや八丁味噌」と「合資会社八丁味噌」の競争意識により数百年間維持されてきた。京都には一六世紀中頃に相次いで創業した「千切屋治兵衛」「千總」「千吉」(最近終業)の和服の老舗があり、金沢には「森八」「中島」などの和菓子屋の老舗が競合している。単独首位のマラソン走者の記録更新が困難であるように、競争こそが維持と発展の要因となる。

第三は「不易流行」。兵庫姫路市にある一二世紀創業の「明珍本舗」は甲冑の老舗であるが、明治以降は注文がない。そこで鍛冶の技術を駆使して火箸から風鈴へと主力商品を移行しながら家業を維持してきた。羊羹で有名な「虎屋」の現在の当主は革新の連続が伝統を維持するとの信念で、次々と新作の菓子を製造しながら五〇〇年の伝統を維持している。いずれも新生の企業にとって十分に参考になる経営理念である。